

## 安全運転 私の誓い

ー公務員としての安全運転行動指針ー

- 1 運転時にも、教育公務員であることを強く意識します。
- 2 歩行者・自転車を優先します。
- 3 疲れている時、心配事がある時、慌てている時、怒っている時は、運転しません。
- 4 自分の運転技術を過信しません。
- 5 運転に集中します。
  - ・「ながら運転」はしません。
  - ・運転に集中できる環境作りに心がけます。
- 6 安全確認は左右ともプラス1回行います。
- 7 右左折・車線変更時には、バイク、自転車、歩行者の存在を「予測」します。

\*見るだけの確認ではなく、「危険を予測する運転」をする。  
「察知」→「的確な判断」（「ひょっとして～かもしれない」）
- 8 迷ったら、減速、停止して安全確認します。
- 9 前夜のアルコールが残っている可能性がある時は、運転はしません。
- 10 事故を起こしてしまったら、責任ある適切な対応をします。裏面参照

◇「誓い」の10項目は、県立学校教職員の事故調査時の聴き取り結果を参考に作成しました。

## ◇交通事故を起こしてしまったら

- 1 車両の運転を停止
- 2 負傷者の救護 (119 番通報、受傷時の状況を救急隊員に説明)  
\* 必要に応じた応急救護処置 (一次救命処置、応急手当)
- 3 道路における危険の防止等必要な措置 (安全の確保)
- 4 警察官へ報告 (事故が発生した日時、場所、死傷者数や程度等)  
\* 相手方が立ち去った場合でも行う。  
(以上、道路交通法第72条)
- 5 職場や保険会社へ連絡 など

## ◇連絡先

自宅	学校
校長	教頭
保険会社	

## ◇ヒヤリ・ハット事例の記録

いつ どこで

---

どんなことが、

---

原因は、

---

### 【ヒヤリ・ハット】

ヒヤッしたりハットしたりすること。アメリカ人の安全技師ハインリッヒが発表した「1:29:300」という法則があります。「1つの(死亡・重傷)事故が発生する背景には、29件の軽傷事故と、その下には300件の無傷事故(ヒヤリ・ハット)がある」という意味で、労働災害の事例の統計を分析した結果、導き出されたものです。